

# 被災地の低需要地の 土地利用管理について考える

## 開催概要

2025年5月10日（土）  
13:30-16:30  
オンライン開催

※要事前申込  
詳細は申し込みいただいた方に別途お伝えします

被災から14年が経過した東日本大震災の被災地においては、半島辺縁部や原発被災地などにおいて、利用主体が不在で、住宅利用や産業利用が見込みにくい低需要の小規模空き地が発生し、外部不経済や自治体の負担が増えていることなどが課題として指摘されている。

本シンポジウムでは、東日本大震災後の事例から、行政と民間が連携して空き地に対してアプローチしている事例を扱い、管理・利用主体と、計画論に着目して、「だれがどのように低需要地を利用・管理する／しないか」について論じる。さらに海外事例からも示唆を得ることで、全国に広がる被災後の低需要地の土地利用について、さらには過疎化の進む令和6年能登半島地震の被災地の今後における低需要地の利用と管理について考えたい。

## プログラム ※時間は目安です

13:30-13:35 開会挨拶

姥浦道生（東北大学）

13:35-13:40 主旨説明

荒木笙子（岩手大学）

13:40-15:20 話題提供

大規模災害後における低需要地の発生実態と管理，計画について

1 東日本大震災の被災市街地における土地活用の取り組みについて

中西賢也氏（復興庁）

2 津波被災地における空き地発生状況と管理：陸前高田市の事例

高橋宏紀氏（陸前高田市）

3 石巻市の移転元地の現状と課題

保原和成氏（石巻市）

4 ハリケーン・サンディ後の沿岸部の空地と管理アプローチ-NY市の事例-

井内加奈子氏（東北大学）

15:30-16:20 ディスカッション

● 今後の低需要地の土地利用管理について考える

コーディネーター：荒木笙子

パネリスト：登壇者の皆さん+姥浦道生，三宅諭（三重大学）

16:20-16:30 閉会挨拶

加藤孝明（東京大学）